須賀川市教育研修センターだより　第 95 号

「みち」

令和２年２月２０日 発行

背中を押す言葉かけを！！

３学期も残すところ１か月余り、１年間の教育活動の成果をまとめる重要な時期となりました。

子どもたちには１年間の成長を具体的に振り返らせるとともに、進級・進学に向けて不安の解消と期待感を高める指導を行うことが大切です。子どもたちの心に寄り添い、どんな道を進もうとも自力で強くたくましく生きていくように、背中を押す心のこもった言葉をかけ、次のステージに夢と希望を持たせてあげたいものです。

教師側は、学級経営や学習指導等について、１年間の指導の記録をもとに反省評価する時期です。P・D・C・A（計画・実行・評価・改善）のサイクルを意識してきちんと評価することから改善策が生まれ、それを実践することで教師としての力が向上します。

「確かな学力の育成」に向けた授業改善の視点

①　「教える授業」から「考えさせる」授業に転換したか

- ○ 児童生徒に「真剣に学ぶ」姿が育っているか
- ○ 教師が一方的に指導していないか
- ○ 話し合い活動が発表に終始していないか
- ○ 学び合いが形式化していないか

②　授業改善の手立てを絞り込み、徹底したか

- ○ 努力しがいのあるジャンプの課題を設定したか
- ○ 「見通し」を持たせて学習に取り組ませたか
- ○ 男女混合４人(原則)グループによる探究中心の場を設定したか
- ○ 「めあて」と「まとめ」に整合性があったか
- ○ 「発問」を吟味してきたか
- ○ 「児童生徒同士の学び合い」を積極的に位置づけたか

③　学びの基盤ができているか

- ○ 教師と子ども、子ども同士の望ましい人間関係が構築されたか
- ○ 子ども一人一人を大切にしたか
- ○ 話を最後まで黙って聞くことができるか
- ○ 発達段階に応じた学びの作法を育てることができたか

ドリームサポーターを目指しましょう！！

◇「応援してほしい人はだれですか？」と子どもたちに尋ねると、家族や先生、友達、コーチなど身近な人々をあげます。しかし、期待や思い、愛情が強い身近な人々だからこそ、ついつい力が入りすぎ、いつの間にかドリームキラーになってしまうこともあるようです。

ドリームキラーになっていませんか？

＜ドリームキラーチェック！！＞

□子どもができることより、できないことが気になる。

□「無理なんじゃない？」「どうせできないよ」「それは不可能」と言ったことがある。

□他の子どもと比べてしまう。

□結果ばかりを気にして、取り組み方をほめてあげていない。

□前例がないから「やれない」と思い込んでしまう。

□子どもにはできるだけ苦労させたくないと思っている。

□思うような結果を得られず、責任を押し付けたことがある。

□「私の言うとおりにやりなさい」と活動を限定してしまう。

□「この子、だめなんですよ～」と本人の前で否定するような言葉を出したことがある。

子どもたちの夢に対して、「信じているよ」「できるよ」と勇気づけ、見守りながら背中を押してあげるドリームサポーターをめざしましょう。

小中一貫教育担当者研修会から

◇グループ協議◇

１月１５日（水）午後２時から、市役所本庁舎大会議室において市内小中学校の小中一貫教育担当の先生方が参加して、研修会が行われました。

中学校区ごとにグループ協議を行い、今年度の小中連携の取り組みを次のような観点で振り返り、成果と課題、来年度に向けての方向性などについて確認しました。担当の先生だけでなく一人一人の先生方もそれぞれの立場で振り返ってみてください。

① グランドデザイン、教育課程をもとにした一貫教育の実践は、よりよい子どもの成長を促すことができたか。（計画と実践）

② 実践にあたって小学校・中学校教員が同じ立場で指導することができたか。（協働）

③ 一貫教育推進にあたって保護者や地域の協力を得ることができたか。（連携・協同）

地域性や各学校の立地条件、児童生徒の人数など、それぞれ違った環境の中で先生方は子どもたちの９年間の学びに責任をもって取り組んでいます。これまでの成果や、今後につながる課題などが多数報告されました。

◇講義◇

後半は、須賀川市教育委員会指導主事の渡邉真二が「主体的・対話的で深い学びの授業における今後の展望」と「キャリア・パスポートの実践」に関する講義を行いました。

新しい学習指導要領で強調されている「主体的・対話的で深い学び」について、豊富な事例をもとに具体的に説明しました。今年度の学校訪問等で参観させていただいた先生方の授業から、子どもたちが発達段階に応じて主体的に、そして対話的に学んでいる様子を映像で紹介しそれぞれの先生方の「新しい授業」に対する意欲的な姿、あたたかく子どもたちを見守る姿をお見せしました。教師は饒舌であってはならないのです。これからの学びについて深く考えることができました。

最後に『キャリア・パスポート』について説明しました。学習指導要領には、特別活動において「活動を記録し蓄積する教材等」を作成活用することが明記されています。その内容の一例が紹介されていますので活用してください。

崩壊危険クラス再チェック

学級崩壊が起こりやすい月は一般的に６月、１１月、２月と言われています。教室を見渡したり、子どもたちの様子をゆっくりと観察したりして早めの対応を取りましょう。

・・・・・・・・・・・・・・・

□教室にごみが落ちている。
□椅子が出ている。棚やロッカーの中が雑然としている。
□授業がすぐに始められない。
□姿勢の悪い子が増えてきた。
□ノートやプリントの字が雑になってきた。
□授業中、立ち歩く子が出てきた。
□友達と目配せしたり、ひそひそ話をしたりする子が増えてきた。
□友達にきつく注意する子が増えた
□立場の弱い子に対して強く当たり言葉遣いが乱暴になっている。
□掃除をさぼる子が増えている。
□教師の小言が増えた気がする。

＜週刊教育資料より＞

フェデラーの言葉

「人の話をよく聞くこと、そして真面目に練習を続けること」

世界のトップで活躍し続けるテニスプレイヤーの試合後の言葉です。世界のトップにいても人々の話を謙虚に受け止め、次につなげようと努力を惜しまない彼の姿に、子どもたちを育てる教師として学ばなければいけないところがたくさんあるような気がします。